

■ 令和6年度 第2回 東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

日 時：令和7年3月24日（月）午後2時から

会 場：東区プラザ 多目的ルーム1

（司 会）

お疲れさまです。定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を開催いたします。本日はご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

司会を務めます、東区健康福祉課課長補佐の岡村と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

会議に際しまして、本日の欠席者のご報告です。木戸地区コミュニティ協議会の星委員、大形地区コミュニティ協議会の新田委員、公募委員の井上委員から欠席のご連絡がございましたので、ご報告させていただきます。また、地域包括支援センター木戸・大形の遠山委員に代わりまして、貝沼社会福祉士にご出席いただいております。

本日の会議につきましては、後日、会議録を公開するため、録音させていただきます。あらかじめご了解をお願いいたします。

続いて、会議資料の確認をお願いいたします。先般、郵便でお送りさせていただいたものを順に確認いたします。

はじめに、次第。続いて、資料1「令和6年度 地域福祉座談会 取り組みの状況」。続いて、資料2「東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表〈2021～2026〉」。こちらの資料2につきまして、江南小学校区コミュニティ協議会の地区別計画の評価表は机上に配付しております。また、桃山校区コミュニティ協議会と下山地区コミュニティ協議会分につきましては資料差し替えとなり、そちらも机上に配付しております。合わせて三つのコミ協分の資料を机上配付としておりますので、ご確認いただければと思います。続きまして、委員名簿と座席表でございます。

資料は以上となりますけれども、本日、冊子「東区地域ふれあいプラン」はお持ちいただいておりますでしょうか。ない方がいらっしゃいましたらお届けします。

では、資料はよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第1、開会のあいさつ。東区健康福祉課星野課長から、開会に当たりごあいさつ申し上げます。

（健康福祉課長）

皆様、こんにちは。東区健康福祉課長の星野でございます。

最近は温かくなって過ごしやすくなってまいりましたけれども、私は今、花粉症に悩まされている一人でございます、少し大変な状況かなと最近、思っているところでございます。

それは置いておきまして、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。令和6年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、日ごろから私どもの行政の業務に対しましてご理解いただきまして、ありがとうございます。

昨年は地震があつて、今年は2月に記録的な大雪がございましたけれども、やはり、そういうときに地域のつながりといいますか、そういった支え合いの関係というものが大事だということを私どもも実感しておりますし、皆さんも実感されたのではないかとように思っております。

それで、今回は、社協を中心に地域福祉座談会ということで回っていただきまして、皆さんから議論していただいた案件がございます。それをメインテーマとして、ほかの地域でどういったことが議論されているのかお話していただく予定です。課題は、福祉の場合は大体、皆さん同じなのですが、地域によっては優先順位が違うということがございますし、また、新たな考え方もほかの地域からあることもあるのではないかと思っております。要は、ほかの地域の状況を知ることができるこれ以上ない機会だと思いますので、そのお話をそれぞれの地区に持ち帰っていただき、今後の取組みに生かしていただければ幸いです。

私からは以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

(司 会)

続きまして、東区社会福祉協議会、川上事務局長からごあいさつ申し上げます。

(社会福祉協議会：川上)

皆様、本日はお越しいただきまして、誠にありがとうございます。社協の川上でございます。

今ほど課長からもお話しございましたように、社会福祉協議会、主に年明けからそれぞれの地域の皆様に大変なご尽力を賜りまして、懇談会、座談会を開催させていただきました。第1回の会議のときにはさまざまな福祉に関する会議があるけれども、それと活動計画、福祉計画のところをどうのように散逸しているものを集約させるのかというようなご質問を、たしかいただいたかと思っております。今、皆様からさまざまなご意見をいただきながら、この活動計画、実践計画であります活動計画のところにはさまざまな会議、その他、地域包括ケアシステムを集約していくべく、これから我々、皆様のご意見をもとにまとめていく作業を開始するところでございます。

本日も、今ほど課長からお話がありましたように、さまざまな意見をいただきまして、さら

に発展させていくように私たちも考えてまいりたいと思っております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

続いて、次第2、議事に入ります。委員会の進行につきましては、東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会開催要項第4条第2項により、委員長が行うこととなっておりますので、会議の進行を小池委員長からお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(小池委員長)

皆様、こんにちは。それでは、よろしくお願いいたします。今日、皆様から忌憚のないご意見や積極的なご発言をいただきながら、充実した内容としていきたいと思っております。特に、最初にごあいさつにありましたように、それぞれの地域の中でどのような活動がなされているかということをお互いに知り合う時間にしていけたらというように思っておりますので、皆様方のお力添え、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ってまいります。2、議事、地域福祉活動計画における地区別計画の進捗状況につきまして、はじめに事務局である東区社会福祉協議会から概要を説明していただき、続いてコミ協より、それぞれ5分程度で地区別計画についてのお話をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

(社会福祉協議会)

それでは、東区社会福祉協議会より、今年度、12地区で開催いたしました地域福祉活動計画・地区別計画を推進していくための地域福祉座談会について、まず、資料1をお手元で見てくださいながらご報告させていただきたいと思っております。

今年度第1回推進委員会にて、今年度の地域福祉座談会開催までの流れについて説明させていただき、その後、夏ごろから各地区の推進委員またはコミュニティ協議会様と打ち合わせをしながら、開催の実施まで進めてきました。地域座談会の開催に当たっては、地区の状況でしたり地区別計画の方針内容に応じて、開催時期であったり参集範囲についてを相談し、どの地区においてもグループワークを通して各地区別計画の方針ごとに意見を出し合う座談会となりました。このような形で広く地域住民を参集し開催するのはコロナ禍以前以来ということで、座談会当日は、改めて東区地域ふれあいプランについて健康福祉課より説明を入れていただきました。

資料1を見ていただくとお分かりかと思いますが、参集者のところにつきましては地区ごとにさまざまでありまして、座談会にどういう目的を持って参集するかというところを地区の皆様と相談した結果、このような参集者となっております。広く地域の団体に声をかけて、つながるきっかけになるようにと参集した地区もありますし、自治会やコミュニティ協議会、民生委

員が日ごろ情報交換をする機会があまりないので、この機会にということで参集した地区もございませう。また、定例で開催している会議や研修会に合わせて開催した地区、また、ささえあいの仕組みづくり会議を中心に開催した地区、見守り活動を重視している地区はコミュニティ協議会と自治会長、民生委員、また友愛訪問担当者を集めるなど、各地区座談会に目的を持って参集範囲を定めております。特に、福祉施設が参加した地区では、施設にどのような利用者が通所されているのか、施設の状況や災害時の対応、また、施設として地域貢献できそうなことなど、さまざまな情報交換をされている場面もございました。また、自治会長様の中でも就任したばかりの自治会長様からは、ほかの自治会がどのようなことをしているのか情報を知ることができてよかったという声もありました。民生委員からは、これまで、自治町内会長と同じグループになって話す機会がなかったのでつながる機会となったなど、参集された皆さんそれぞれからコメントをいただいております。年に一度ではありますが、日ごろの地区内の活動について横断的に活動者が集まり意見を交わし合うことは、それぞれの日ごろの活動の重要性を再認識する重要な機会だと、事務局として改めて認識しております。

この後、各地区の推進員の皆様より座談会開催におけるコメントを頂戴いたしますが、各地区で今後、開催後の振り返り評価を行い、次年度に意識して取り組んでいくことについて明らかにしながら、来年度も社会福祉協議会は地域の皆さんと一緒にこの計画を推進していきたいと考えております。そして、今年度は画一的な形で 12 地区、地域福祉座談会を開催しましたが、来年度は各地区での計画推進に関する取組みについて、また、推進委員をはじめコミュニティ協議会様と区社協の担当者として相談しながら進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。事務局からの説明は以上になります。

(小池委員長)

ありがとうございました。

それでは、先ほどの順番に説明をお願いいたします。いただいている資料の順番になるかと思っておりますけれども、山の下地区からになりますでしょうか。では、お願いいたします。

(星野委員)

山の下の方の星野です。よろしくお願いいたします。

今ほど説明がありましたように、山の下地区としましては、2月14日、人数的には32名という、私どももこんなに大勢集まるかなと思うほどの人数の方が集まっておりました。

内容としましては、資料1に書かれておりますように、コミ協の役員、地域福祉部役員、自治会の町内会長、民生委員児童委員、友愛訪問担当者ということで、非常に日ごろから地域に関心を寄せていただいている皆さんに集まっていただき、グループワークということで5グループできました。その中で、資料2にありますように、目標が三つあります。推進目標の1は、

地域の問題解決のための会議を開催しよう。これは、2月14日以降、2月21日になりますが、自治会の会長と民生児童委員で毎年やっております懇親会もございまして、その中でも14日の座談会にあった振り返りですとか関心ある話題なども含めまして、非常に有意義な懇親会をやらせていただきました。特に、友愛訪問の方々が月に1回必ず見える化運動をしておりますので、その中でいろいろな情報を入れていただきまして、非常にいい関係になったと思います。

推進目標2、顔の見える関係づくりをしようということで、これは各地域で、一応、コロナ禍後ですが、お茶の間もずいぶん推進できまして、各町内もれなくお茶の間ができるようになりました。この中で集まってくる方々は、どうしても人数が低下してしまうのですけれども、見える化の中でどうしてもお会いできない方々の情報を、集まってこられた方からお聞きするというか、そういう会にもしたいと思っております。

推進目標3ですが、災害時要支援者への対応や協力体制の整備をしようということで、これはとても各グループが盛り上がりまして、どのようにしたらいいのかという、特に昨年、災害が地域でもありましたし、また、そういう意味で、名簿を活用したときの支援の具体的なものを、各町内で避難訓練をしないとまずいよねという話になりまして、町内会長もすごくそれを危惧していたようで、これから進めてまいりたいと思っております。

最後になりますが、山の下には市場がございまして、今、やはり高齢化が進んでおりまして、経営者の方ができないということで、店を閉めたりシャッター化しているところが多いのです。広い地域の市場を何とか活用し、もう少し活性できるのではないかという話題が非常に盛り上がりまして。これも併せてこれから進めていきたいというように思っております。以上でございます。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、次に桃山校区からお願いいたします。

(小湊委員)

桃山校区の小湊です。よろしくお願いします。

資料を見ていただければ大体分かると思うのですが、ちょっと私が所用でまとめる会に参加できなかったもので、いろいろと情報をお聞きして、このような感じだなと。目指す姿としては、地域全体で協働し、地域交流活発な町にということを目指します。

推進目標1として、問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよう。これは桃山プロジェクトとかをやってみて、明らかに助けてほしいという声があるのですけれども、それを拾えるチャンスがなかなかなかったということがあります。そういう意味で、これから何かの相談、ここには住宅修繕等と書いてありますが、相談事があってもそれに対応できるか

どうかと言われると、少し困ってしまうということもありました。それから、全体的には、行事をやるにしても役員が不足気味ですねと。どうしても役員も高齢者になりますから、その辺が少し問題です。それから少子化ということで、確かに子どもが少ない、小学校なども実に生徒が少ないということもあって、なかなか多世代で楽しめる行事とかそういうものがなかなか上手くいっていないかもしれないということがありました。

それから、次に、推進目標2として、次世代の担い手を育てようと。やはり、ここも、いわゆる若手が参加しやすいということがどうしたらいいのかということ、やはり、考えていかなければいけない。それから、高齢者男性が参加しやすいような組織にもしなければいけないわけですね。

それから、次に、推進目標3、地域で見守り、助け合いができる環境づくりをしようと。これはどうしても地域というと自治会、町内会というところが最小単位になると思うのですが、それらの集会所を何とか上手く活用できないだろうかということ。やはり、これも人手がどうしても不足しているということもあります。除雪作業では、なかなか中高生の参加は難しく、やっている人が高齢者になるのですが、ある程度除雪機も購入を検討していますけれども、実際に運用する人たちがなかなか難しいのかもしれないかもしれません。それから、要支援者名簿はあるものの、実際の支援には限界があるということが、では、どうしたらいいのかということがあります。

それから、推進目標4、町内の人たちが気軽に集う場所を作ろうと。この辺が、集まれる場所があればいいのですけれども、なかなかないところもあります。それから、ラジオ体操などをやると、子どもが来れば親とおじいちゃんおばあちゃんが来ますので、これも非常にいいと思っております。それから、どちらかというと横のつながりの希薄さから、男性がなかなかこういう組織とかか会に参加しづらい、どうしたらいいのかという問題があります。町内の集会所がやはり少ない。そういう意味では、何とか集まれる機会を設けるようにしてはどうかということで、話し合いをまとめさせていただきました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

では、次に東山の下地区、お願いいたします。

(椎谷委員)

東山の下地区の椎谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

説明させていただきたいと思います。うちの地域では座談会を1月26日にやりまして、大変いろいろな部署からの人たちがお集まりいただきまして、その表にありますように、推進目標2のところまで話が終わってしましまして、これからはまたこの人たちを集めていただいて、

話を進めていきたいと思っております。

目指す姿としまして、地域の力を総動員して全地域で見守り、生活支援活動ができる東山の下にしようという姿が目標で上がっております。推進目標1、コミ協と町内会単位で仕組みを作ろう。この3点をやっております。その中で、今、一番困っているところが、デマンドタクシーの活用なのですが、これが含めまして、5年目になるのですが、前回、アンケートを取りました。その中で、前日予約が、タクシー会社が1社なものですから大変使いづらいというアンケート結果でした。今用意されているうちのコミ協の予算がちょうどいっぱいになっているところなので、これが使いやすくなったらもっとお金が足りなくなっていく、これでまたどんどんお金の心配をしなければいけないのではないかということで、話が続いています。

推進目標2、子どもから大人まで顔の見える関係づくりをしよう。この中で、避難所開設準備です。これは町内会長でまとめてお願いしておりましたけれども、町内会長は各町内の面倒を見なければいけないのではないかということで、防災士を中心に開設をしようとなりました。町内会に1名の防災士を誕生させようということで、コミ協で今年度から募集しまして、今年は10名、防災士が誕生しました。来年度も10名。そうすると大体、町内各一人誕生するのではないかということで、その防災士を中心にして避難所開設を準備してもらおうというように、今から動いております。走りばしりですみません、以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に下山地区、お願いいたします。

(渡辺(順)委員)

取組みの状況からいきますと、青パトをやっております、青パトは15名なのです。2名ずつ車に乗りまして、学校などが終了のときに合わせまして、学校に行ったり町内の周りを全部車で回って見守るようにしています。私の場合は、小学校に行きまして、ちょうど下校時間に合わせまして、小学生に、気をつけて帰ってねと言って、そういうやり方をしております。

それから、地域の茶の間を町内で行っております。ただ、24の地域があるのですが、16地域のみなのです。町内で作業はやっておりまして、高齢者に関する地域の茶の間を行っております。高齢者はとても喜んでおりまして、担当者が作業して、お茶を出してあげたり歌を歌ったりというような作業を行っております。

それから、下山は、支え合いの会としまして、家の中を清掃したり草取りをしたり、いろいろなことをしてあげているのです。ただ、町内から2名ずつ出していただきまして、作業していただくのです。ただ、冬場はちょうど、今回は雪が多くて電話も来ませんでした、最近、

3月でしたか、うちに来て作業してくださいという人が近くの町内から来まして、作業してあげたのです。そのような作業も行っております。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、紫竹中央の発表をお願いいたします。

(伊藤委員)

紫竹中央コミ協の伊藤です。

座談会取組状況は、資料1を参考願います。それから、地区別計画評価報告も、内容はご覧のとおりですが、加えて、まとめとしまして、報告いたします。

最初に、推進目標1、地域ぐるみで子どもの安全を見守っていこうです。子どもの見守り隊の活動は、防犯、防災、交通安全などの面から児童生徒の登下校の安全を守る活動、さらに校区内公園などの見守り活動などを託されておりますが、最近は、見守り隊の要員不足と高齢化が進み、深刻です。

このような大変な任務がボランティア活動です。活動は自由意思に基づいて行うといわれますが、いかがでしょうか。支援は地域の活動団体との連携といわれますが、いかがでしょうか。見守り活動の恩恵に報いる必要があるのではなかろうかというような提案をいたしました。

続きまして、推進目標2です。災害時の助け合いの基盤を作ろう。小学校区自治防災等訓練が、毎年参加し、運営委員会のご指導を感謝しております。訓練を教訓に、自治会、自主防災組織活動の基本である一時集合場所の存在に着目しました。重要性が十分伝わるように、改めて指導したい。災害が発生したときに瞬時に家を飛び出し、お互いが声かけ合いの場所として近隣の避難者が一時的に集合する場所として、一時集合場所の利用を進めております。迅速かつ安全な場所として、最寄りの駐車場、それから民間企業の倉庫、それから空き地などの使用許可をいただいて活動を行っております。

続きまして、推進目標の3、顔の見える関係づくりを進めていこう。地域で顔の見える関係づくりを進めるうえで、少子高齢や共働き家庭の情報など、生活様式が多様化し、身近な地域の中でも希薄な世帯が増えつつあります。関係づくりが難しくなっています。地域とのかかわりを持っていない子育て世帯や、支え合いを必要としている家族もいます。特に、子どもを育てている子育て世帯に目を向けていただける環境づくりの交流の場を整え、関係づくりを進めていきたい。これからコミ協、自治会は、生活様式を踏まえ、地域に対する意識や愛着を高め、柔軟な対応を考えていくことが求められます。柔軟故に自分の関心がある分野や可能な範囲、それから自由な意思で活動に参加できる環境を整え、顔の見える関係づくり、より身近に感じられる雰囲気作りに努力したい。以上でございます。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、次は、木戸でしょうか。木戸は今日、欠席ということでしたので、社協からご説明いただけるということで、お願いいたします。

(社会福祉協議会)

星委員に代わりまして、説明させていただきます。

木戸地区は、今回、ささえあいの仕組みづくり会議が中心になって座談会を開催しています。木戸地区は竹尾地区、また、木戸地区の二つに分かれて、地区の状況を踏まえ、意見出しをしました。それぞれの小学校区ごとに活動の状況が異なるため、課題もそれに沿って異なっているというような状況でございます。

推進目標1では、健康ボーリングがロコミで参加者が増加していること、また、健康吹き矢の支部を立ち上げて、今後は学校との連携を見据えているとのご意見がございました。

推進目標2では、防災訓練についてですが、木戸中学校の中学生も授業として参加しているというお話がありました。令和6年度から、防災訓練の準備にも中学生が携われるように準備をしてこられました。今後の課題として、防災訓練後に交流できるようなイベントを開催したとか、定期活動を知ってもらう、顔を知ってもらうことが担い手育成、若者を取り巻くというようなところで必要なのではないかという意見が出ていました。

推進目標3では、自治町内会長と民生委員との情報交換を行い、情報共有の強化が必要だということ。そして、若手も参加しやすいように、夜間開催の会議も検討してはどうかというような意見が出ました。また、木戸地区全体としては、あいさつの状況がとてもよく、大人も子どももそれを意識しているというようなことで、取組みの状況がとてもいいとのお話も出ていました。

大澤さんからも、座談会に参加されて何かご感想があればお聞かせいただければと思います。

(小池委員長)

お願いいたします。

(大澤委員)

木戸地区の大澤と申します。民生委員をやっております。

木戸地区は、竹尾小学校と木戸小学校と二つありまして、またそれぞれ特徴が違うところで、その地域に見合った活動をしていると、私は実感しております。それから、私としては、高齢者の方々には、遠くに行かなくてもその地域で体を動かしたりコミュニケーションを取ったりして、健康寿命を延ばしていただきたいと常に思っております。そのためには、私たち民生委員が地域のことをもっとしっかりと勉強して、それから、地域の方々に伝えることが自分たち

の目標というか仕事だと思っております。民生委員もまごまごしていないで一生懸命地域のことを勉強したいと思っております。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

それでは、続きまして、牡丹山地区、お願いいたします。

(乙川委員)

牡丹山地区の乙川と申します。よろしくお願いいたします。

安心して暮らせるまちづくりということで、思いやり応援隊は地域の活動協力、草取りや電球の交換などをやっております。依頼が多いのですけれども、担い手の人が高齢者ばかりで、若い人が来てくれません。やはり、若い人が来てくれるような方法も必要かなと思います。

推進目標2の茶の間は、健康の講座をやると参加者は増えるのですけれども、これもやはり若い人は来ない、年寄りばかりだという話もありました。皆さんには、やはり、広報とかそういうものを強化することができればいいかなと思いますけれども、なかなか上手くいっていないということです。

推進目標3で、やはり、自治会と民生委員があまり交流がないと。それでもってなかなか個人情報、いろいろ教えていただきたいけれども教えてもらえない。やはり、そういう民生委員と自治会の情報交換会ですか、そういうものを行ったほうがいいのではないかという話が出ておりました。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございます。

では、続きまして、大形地区も欠席ということですので、社協からお願いいたします。

(社会福祉協議会)

大形地区では、目標、目指す姿の内容に合わせて参集者を決め、声かけを行っています。自治町内会とコミ協の関係者の皆さんは、会議で日ごろつながりができていましたので、自治町内会長へ地域の活動状況、ボランティア活動などの状況を伝える機会とするために、子ども食堂であったりさまざまなボランティア団体、地域の茶の間の方や民生委員にも集ってもらい、開会いたしました。当日は3グループに分かれてグループワークを行いました。

意見としては、自治会役員の交替に伴って、支え合いの大事なことを意識してほしいというようなことを繰り返し理解促進を図っていく必要があるのだというような認識を共有していました。また、若手の育成というところでは、青少年育成協議会の若い世代の方々が、コミ協主催の行事などに積極的に役割を持って参加してくださることで、徐々に担い手のバトンタッチができているとの状況を共有しています。また、地域の茶の間の参加者の固定化という部分に

については、どのグループも課題として上げられていました。すでに次年度もこのような形で座談会を開催したいとの声が聞かれています。大形地区は以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、次に、江南地区からお願いいたします。

(新保委員)

3月14日、ちょうど新潟市の社会福祉協議会の理事会がありまして、今年度は私一人でしたのでそちらにいましたので、社協さんから、3月14日の情報交換の説明をしていただきたいと思っておりますので、ご了承願います。

(社会福祉協議会)

江南地区では、もともと6年前から開催している福祉のまちづくり研修会という研修会で三つほどテーマを設け、情報交換や意見を出し合うという研修会で地域福祉座談会としていただいております。子どもの見守り活動をしているボランティアですとか地域の子ども食堂、また、読み聞かせボランティア、そして小中学校の校長先生であったり地域連携推進の担当の教員の方が参加されてきました。

中でも印象的だった内容として、地域連携推進の学校の先生から、地域で中学生に参加してもらいたい行事があれば、情報をいただければ、お昼の校内放送で流して希望する生徒を募ることができますよというお話をされてきました。実際、回覧板で地域の情報が流れたとしても、保護者が見てすぐに回すので、そういった地域の情報に中学生が触れる機会は少ないです。そのため、学校から直接子どもたちに地域の情報を伝えようとしているということでした。すでにその効果も出ているようで、実際に、自治会の行事に中学生が参加しているというようなご報告もいただいております。

また、子どもの居場所に関連するお話もグループの中で出ていました。公園に行けば大きな声を出してはいけない、ボール遊びは禁止など、子どもたちが外で過ごしにくい環境があるということ。昔は気軽に声をかけたり、子どもが畑にいる大人に何しているのと声をかけてくれたり、そういうような自然なやり取りが地域にはありましたが、今の地域はそうではない。地域がもっと若者に寛容な町であるといいというようなお話も、とても印象的でした。地域と学校、地区の社会福祉協議会がさらに連携できるとよいとの自治会長のまとめがあり、終了いたしました。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、中野山地区、お願いいたします。

(白井委員)

中野山コミ協の白井と申します。よろしくお願ひします。

中野山地区なのですけれども、目指す姿としては、安心して暮らし続けたい美しい町ということで、推進目標を四つ掲げてあります。その四つをそれぞれ推進するための計画方針ということで、発表したいと思ひます。

推進目標1、顔の見える関係づくりを推進する。石山中学校区全体のあいさつ運動を展開する。近所づきあいを大切にする。これは地域、家族ということです。誘い合って自治会、コミ協等の企業に参加する。子どもと大人が交流できる事業を実施する。そういう形で取り組んでいきたいと思ひています。

推進目標2、非常時にも対応できる仕組み作りを推進する。コミ協の自主防災組織を充実させる。コミ協から自治会へ、自治会から各世帯への情報伝達の仕組みを作る。コミ協、自治会と民生委員、児童民生協議会の組織間の連携を強化する。要支援者の体制を作っておく。班単位での情報の共有と更新をする。

推進目標3、気楽にだれでも集える居場所づくりを推進する。地域の茶の間の事業を拡充する。地域の茶の間は自治会にかかわらずだれでも参加できるようにする。コミ協での各茶の間の情報を収集、整理し、相互案内できるようにする。空き家の活用をするなど、自治体ごとに集まる場所を確保する。声をかけて集まることを目標にし、声をかけ合って集まることを目指す。

推進目標4、美しい環境づくりを推進する。公共施設や植込み、花や緑を植え、緑化活動を推進する。クリーン活動を通して地域の環境美化に努める。そのようなことを計画方針として取り組んできました。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、次に、南中野山地区、お願いいたします。

(渡辺(孝)委員)

南中野山地区、渡辺です。

10 ページに書いてありますので、ご覧ください。全体として、目指す姿ということですが、一番上に文字が大きく書いてありますけれども、そうした困りごとは地域住民同士で解決できるような町に。これを具体的にといいますか、どういうことかというのは推進目標の1のところに書いてあります。ささえあいの仕組みづくり委員会というものがあまして、そこを中心として、目標のところに書いてありますように、ヘルプ南中野山という活動を中心にして進めております。そこでは、大きな困りごと、例えば、道路が陥没したとか、そういう大きなもの

はもちろん行政にお願いするわけでありませけれども、ちょっとした困りごと、例えば、電球が切れたけれども自分は危なくて替えられないとか、草がぼうぼうになっているけれども、玄関まで出て草取りをすることができないという、そういうちょっとした困りごとに対して、ヘルプ南中野山として、二つのグループがありまして、一つは、協力者ということをお願いされたら助けてやるという立場、それから利用者という、困りごとがあったら連絡するという、その橋渡しをしまして、毎月それぞれ小さな困りごとについて対応するということをやっております。

それで、最近では移動といいますか、スーパーへ買い物できない、あるいは病院に行きたいという、それほど遠くない場合に限るのですけれども、タクシーを使うほどではないような場合には自分の車を運転してそれをお助けするという活動も、それは今年度からなのですけれども、やっております。それで、目標1の最後に書いてありますように、地域の自発的な助け合いと書いてありまして、ヘルプ南中野山を通じた助け合いを基本に、将来的には地域住民同士での助け合いが自然にできることを目指すとのことで、ささえあいの仕組みづくり委員会の目標として、こういうささえあいの仕組みづくり委員会なるものが必要なくなるくらい、それぞれの自治会あるいは班内で小さなことを助け合うような社会を作ろうというのが理想になっております。

推進目標2に行きます。これはコミ協単位ですと、どこのコミ協も面積が広いのは、ある意味、当然なのですけれども、当コミ協は比較的狭いのですけれども、それでもお年寄りや遠くで参加しづらいという声があちらこちらから聞こえてきます。ですから、どうしてもこういうお年寄りの集まるお茶の間のところ、自治会の力でもって運営していただくというのが基本かなということで、ここに書いてありますようなものが、どちらかというコミ協でやっているものなのですけれども、基本的にはそういう自治会内が望ましいという考えです。

それから、推進目標3、民生児童委員と自治会の情報交換。これは、情報と言いますと少し大げさなのなのですが、例えば、近所のおじいちゃんが二、三日顔が見えないみたいだけれども具合でも悪いんだろうかという情報を、今、民生委員なり自治会からの情報なり、お互いに知ることが非常に大事だということがいわれていまして、それが、ここに書いてありました、なるべく民生委員は自治会の役員会に出席するよというように進めております。なおかつ民生委員の集団と、それからコミ協で全体会議を協働で持つようにしております。先ほど言いましたように、実際には、全体会議よりも大事なことは、それぞれ小さな情報、情報の小さいものは何なのか分かりませんが、小情報でしょうか。そういうものが大事なのだなという思いがします。

それから、推進目標4の防災体制は、コミ協の防災訓練はもちろんありまして、ここに書い

てあるように、小学校に消防車が行っているのですけれども、コミ協全体の防災訓練と同時に、自治会としての取組みというのは非常に大事なことであると思います。そこに書いてありますけれども、自治会としてけっこう温度差があるのです。一生懸命やっている自治会と、ほとんど、自治会としては行事で何もしていないというようなことがありまして、それはそのときの私の座談会の同じグループの、ちょうどなったばかりといいますか、半年くらいしかたっていない自治会長なのですけれども、避難行動要支援者の名簿が来たけれども、これが何を意味するのか、どういうように使っているのかが分かりませんので教えてくださいというような感じの方がいらっしゃいました。

ここで言うべきことではないかもしれませんが、自治会長の選出方法というのは、今はいろいろありまして、毎年交替のところと四、五年続けるところがありますので、防災訓練に関しては、本当に温度差が大きいというのが現実の状況だと思います。以上です。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、最後に、東中野山地区、お願いいたします。

(野村委員)

東中野山の野村でございます。

いろいろ、福祉座談会だとかプランについてこういうようにいたしましよとかいろいろありますけれども、私がいつも感じることは、今から5年前にささえあいの仕組みづくりを作ったのですが、その当時はいろいろすったもんだしたものでありまして、納得してくれる人、納得してくれない人、いろいろおりました。ところが、今は高齢者が多くなったのかどうかは知りませんが、非常にスムーズに行っています。というのは、敷地の草取りをしてくださいます、玄関前の除雪をしてくださいますなど、言わなくてもスムーズにしているのが実態のようです。私は、やっと住人が分かってくれたのだなということに感謝しているところでございます。ですから、その点を後輩に譲って今までどおりやっていけばいいのではないかなというように思っています。

座談会もこの間、やりましたけれども、そのときも、2月9日にやらなかったということで、連携してやったのですけれども、出席者が8名ということで、これも自治会長と民生児童委員、それからコミ協の委員、茶の間の経営している人たちなどからいろいろありましたけれども、みんな喜んで集まっていたり、話し合いをしましたけれども、これもスムーズに行ったように私は思っています。ですから、最初は苦勞しましたけれども、今、私は安心して見ていられるのが、コミ協主催の地域の茶の間とか、あるいは、皆さんが積極的に集まっていたい

て、そして積極的に困った人に対して手を差し伸べてみるというのが見えているものですから、私は今、喜んでるところでございます。そのようなことで、これからもこれを継続して皆さんに伝えていけば、東中野山校区はいいのではないかなと思っています。簡単ですけども、私が感じたことを地域福祉座談会とかいろいろな状況などよりも、実態がそうだとということで、皆さん方から理解してもらえるのではないかと思います、話を終わります。

(小池委員長)

ありがとうございました。

今、12 地区それぞれのところの座談会、そして施設などを含めて、各地区の計画、評価をお聞かせいただきました。最初にこの事業の概要でもご説明がありましたように、本当に皆さんそれぞれの地域で、課題は同じでもどこを優先順位にしているのか、座談会のメンバーをどういう人たちで話し合っているとどのような成果というか、どういう課題が出てきたかというものを非常に興味深く聞かせていただいております。

最初に事務局からもご説明がありましたように、ぜひ、今、この 12 地区の活動について、皆様と共有させていただきましたので、ここの地区のこういうところについてお話を聞きたいとか、もう少しここのところを細かく聞かせてもらえないかといったようなご質問とかご意見を承りたいと思います。皆様から、いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、もしよろしければ、いろいろ、ここはどうなっていますかとか。若手が増えないというご意見もいろいろなところから出ていたかなと思います、皆さんが考える若手というのはどのくらいの年齢なのだろうと思いつつ私は聞いていました。

少しプライベートな話ですけども、うちの親も、私は奈良の出身なので、奈良で皆さんと同じようにいろいろな地域活動をやっているもので、若手がない、老人会と言ったらいいのでしょうか、その委員長をずっとやっているのですけれども、辞められないと言いつつ続けているという状況だったりもするので、さて、皆さんの中でどのくらいの年齢の方々に加わってくださるといいと思っているのかなとか、そのところで、すみません、私もすぐ出てこなかったのですが、こういう工夫をすると、やはり、このくらいの年齢の方々なら声をかけると少し関心を持ってくださるとか、何かそういうところでも、ご意見とか、うちはこうですよというようなものがあれば、聞かせていただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

(小湊委員)

桃山地区もそうなのですが、若手というのは、私の考えでは 60 歳未満の人です。というのは、私もそうですけども、70 代を超えてしまう。最近、仕事で 65 歳まで仕事をしないといけないということもあって、なかなかこういうものに参加できないと。65 歳を過ぎて、さあと言っても、しばらく、少しぼうっとして、実際に始めたのが、私は 70 歳くらいからです。そう

すると、体力と気力がもう衰えてしまうということもあって、できれば60歳未満の人。特に、時間はかかりますけれども、私、一番重要なのは、中学生と大学生だと思っています。中学生は、自分たちの地域の中で今後、将来、どういう地域になったほうがいいのというのとおり、大学生は大学生でものすごく真剣に考えていただけるということもあって、その辺の人たちがこういう場に来れる時間帯、例えば、今日集まるこういう時間帯は、はっきり言って仕事をしていないお年寄り、それから女性たちということになると思うので、その辺も少し考えてもらいたいなと思っています。

それからもう一つ、少し言わせてもらいたいのは、男性がなぜ少ないかというのは、ごく簡単な話で、男性というのは縦型社会、縦型組織の中で生きてきたのです。ボランティアというのは、実は、横型組織なのです。リーダーはいても横に広がっている。だから、昔で言う井戸端会議というのは、皆さんが集まってちょこちょこ話をして、最近、あそこのおじいちゃん出てこないよね、どうしたんだろうねと言うと、だれかがちょっと聞きにいつてみるわと言って聞いてきたら、少し風邪引いて休んでいたんだわというだけで終わるかもしれない。そういう横の情報のつながりが無い。例えば、民生委員にしても、あれだけ広い地域を管轄するのは、情報を得るのは非常に難しい。だから、男性はそういう横型組織に慣れる必要があるので、若いときからそういう組織に慣れないと、なかなかこれからも増えないと私は思っています。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、野村委員、お願いいたします。

(野村委員)

野村です。

若手の役員というか、私は50から60歳くらいを見ているのですけれども、私らのほうで言うのは、若手を増やしている、教えているのは、役員が7、8人から10人くらいいるなら、その中の1人か2人、若手を入れておけば、その次はまた2人、4人、その次は8人とだんだん増えていくわけですけれども、それを1年に1回ずつ増えていっても、かなり後継者がいないというようなことにならないと思うので、そこへ入れるか入れないかというのが、私はものすごく大事だと思います。

私のところは今、女性もそうですけれども、8人の役員がおりますが、8人の内、2人が女性。それから一人が若手というか60前後です。そのようなことで今、育てているわけですけれども、こういうものを繰り返していけば、若手、担い手がないというようなことにはならないと思います。やはり、努力しないと、人が来てくれるのを待っているというようではだめなので、自分のところの自治会からそういうものをなくしていききたいから、募集したり、そのよう

にして後継を育てているわけですが、このあいだ言ったように待っているわけにはいかないわけですから、増えないなんていうのは待っていても増えませんので、そのように、よくしたらいかがでしょうかということでございます。

(小池委員長)

ご意見、ありがとうございます。お二人からご意見をいただけてとてもありがたかったなと思ったのですが、皆さんからほかに追加がなければ、少し私からしゃべらせていただきますが、いいですか。

今、やはり、60に入る前くらいのところがかかわるきっかけを持っていただけるといいのかなというご意見だったかなと思います。先ほど小湊委員が、中学生と大学生が少しキーワードになるのではないかとということをおっしゃってくださいました。私は新潟市からのオーダーで、新潟市内の子どもの居場所をどうするかというのを、今年度1年かけて調査をやっていて、ちょうど今、最終、まとめていたところなんです。そこでやはり、中学生と高校生というのは大きく変わるのだなというのは改めて感じさせてもらっています。中学生までは住んでいるところと地域が一体です。高校になると本当に広がります。そうすると、高校生にとっての地域というのはどこを指すのだろうというのは、やはり、とても変わってきます。中学生までは、自分が住んでいるところが、いわゆる地縁のある場所になりますけれども、高校生になると、子どもたちにとっての地域というのは、自分が住んでいるところか学校があるところか、そしてエリアがとても広がる。そうすると、やはり、地域の中で一緒にというように言っても、少し現実味というか、私たちにとっての普段の地域というのはどこなのだろうというというのがやはり広がったりとか、特に、自分たちのやりたいことがたくさん出てくる年代でもありますので、そこが自分たちの地域という感覚にもなっていきます。しかし、中学生までは、やはり自分が住んでいる、それこそ歩いたり自転車でいける範囲のところ自分たちにとっての地域のつながりの場所となると、本当におっしゃってくださったように、やはり、そこで自分たちの地域の愛着であったりとかいいところであったりというものを知るといえるのは、やはり、中学生くらいのところなのかなと思いつつ聞いていました。

あと、大学生は、おっしゃってくださったように、では、今、自分たちがいるところの地域がどうなっていくのかということを実際に考え始める子どもたちが増えていきます。高校生とのギャップなのかなと思いつついるのですが、高校時代にやりたかった地域の活動を大学生になったらやりたいという子どもたちはけっこういます。なので、そういう面からも、おっしゃってくださったのは本当にそうなのです。ただ、きっかけと、やはり、情報がどのように届いていくかということかなと思いつつ聞かせてもらっていました。

あと、女性を巻き込まれたらいいのではないかとということで、野村委員からおっしゃって

ださいましたけれども、少し前のニュースとかでも言っていましたよね。人口減少地域の中の自治会をどうやって維持していくかというときに、やはり、若いというか、子育て世代の女性とかがなかなか参加しづらい状況がいろいろな地域で起きていると。どこだったか忘れてしまったけれども、どこかの一つの自治体の全部、全員、自治会長が男性だったということがニュースになっていて、その中で、おっしゃるように縦型社会の中で自治会の運営をされていると、横型を望む傾向の強い人たちはなかなかいづらいついていけるというところが出てきているというのも、全国的な、ここの地域だけではなく、課題になってきているということは出てきていたかと思えます。本当にそういうところから一つ一つ、巻き込んでいただけるといいのかなと思いついて聞かせてもらっていました。ありがとうございます。

もう一つくらい、皆さんにお聞きしてみようかなと思うところがあるのですけれども、少しした困りごとというところをどうしていくかということで、ちょうど南中野山の報告の中からあったかと思えます。多分、皆様、それぞれの地域の中で、行政の方々に動いてもらったりとかではないけれども、ちょっとした困りごとをどう解決していくかということで、ここは地域の中でやっていくといういろいろな取組み、工夫がありました。これもどの程度のところだとちょっとした困りごとという認識になりますか。どういう活動が。先ほどは、電球を替える、あとは何でしたか。雪かきですか。

私が住んでいるのは沼垂なので、沼垂もとても細い路地がたくさんあって、大雪が降ると、ここは絶対に除雪車も入らない、どうやってこの方は家から出るのだろうみたいなところの細い路地がたくさんあるエリアなので、ときどき、勝手に雪をかいたら怒られるかなとか思いながら見ているのですけれども。しかし、どの程度のところだと私たちは一緒に支え合えるかなという、その活動の内容を何か工夫されているところはありますか。ここまでなら大丈夫とか。お家の中に入るのはちょっと難しいけれども、先ほど言った草取りだと庭先ですよ。それだとそこまで抵抗はないかなとか。活動されているところで、私たちのところはこういうところまでやっていますというものは何かありますか。大体言われたら何でもやる、そんなことはないですか。

(大澤委員)

民生委員をやっていると、一人暮らしの方が多いので、特に元気な方は女性なのですけれども、結局、ごみ出しをするにも重い物が持てない、それからお風呂を沸かすにも、夏場はシャワーでいいのだけれども冬場になると温度調節をどうやっていいか分からないとか、それから携帯電話の使い方とかそういうことでちょこちょこ呼ばれることがあります。ごみ出しは、生ごみでなかったら前の日に玄関に出しておいてくださいと言って、それで捨てに行ったりはします。あとは、湯沸かし器は自分の家の物とほぼ同じだから何とかありますし、あと、携帯電

話も私が使っている分の、教えられるくらいならできるかなと思ってやっています。とにかく年を取ると、メカとかそういうものは全然分からなくなるので、多分、そういうところが困っているのかなと思っています。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

(新保委員)

江南コミ協のささえあいの仕組みづくりは有料にしているのです。30分を基本にして500円。ですから、ごみ出し、玄関の前に集まって、自分の町内のごみステーションへ持っていくと。行った人のところではなくて。それで、また除雪だと、草刈り、家の中には入らないにしても、電球取り替えというのはあれには入りますけれども、基本的には、玄関の前にごみを出してもらう。草刈りも、40分になったら1時間に換算して500円、500円で1,000円ということです。

それで、結局、有料にしているから頼みやすいと。もちろん、今まで隣近所でやっていて、お菓子をお礼に、それはその人のつながりでやっているから。

私たちは最初にささえあいの仕組みづくりを7人でやったのですけれども、基本的にどのようにするかということをおみんなで真剣に話し合っ、有料にしよう。これを基本にして、それから、スーパーにタクシーで行ったら、1人だったらいいのだけれども、2、3人だと何を買ったかというのが気になるということで、いやだと。それで、タクシー会社とも交渉していたのだけれども、結局、ご破算になりました。そのようなことで、基本的には有料で、今、南中野山の南のほうに、お医者さんもやっているということで私も接骨院に行っていると、車でステッカーを貼って送り迎えしているので、いいなと思って。私たちは有料ということで、申し訳ないけれども、そのほうがかえって頼みやすいと。

それで、100円の券を先にもらうのです。1,000円分とか2,000円分とか。頼んだ人に、帰るときにお渡しすると。もらった人は1か月ためてお金に換えます。だから、その場でお金の受け渡しではなくて、あらかじめごみ出しをお願いしたら500円分、1,000円分買って渡す。こういう方法が、いろいろ検討して、これが今は定着しているということで、うちもやはりごみ出しということです。

(小池委員長)

ありがとうございます。

では、渡辺(順)委員、お願いいたします。

(渡辺(順)委員)

今、お話のありましたごみ捨て、隣の町内の会長から連絡が来まして、前の会長がそんなこ

とを、捨ててられないと言われたのだそうです。それで、そこの民生委員の方も全然やってくれないので、私にやってくださいと言って、隣の町内、毎朝捨ててあげています。ただ、外に出しておいてくださいねと言って、捨ててあげているのです。町内でも捨ててあげていました。外に出しておいてくださいねと。朝、小学校、中学校に行く生徒、交通整理をやっている、それが終わるとぎりぎりごみ捨てをしていて、本当に他の町内の会長はすごい人だなと思って。現在の会長はそういう人ではなくて、前の会長がひどい人。

(渡辺(孝)委員)

よろしいですか。

(小池委員長)

では、渡辺孝一委員、お願いします。

(渡辺(孝)委員)

それでは、私のところに関係した話題になっているようですので、委員長からの質問について答えながら、全体について説明したいと思います。

先ほど言いましたように、ヘルプ南中野山という組織がありまして、利用する人は助けてもらいたい人です。それはちょっと細かい数字は忘れましたが、4、50人の登録メンバー、登録制になっています。それから、助けるほうの係、協力員という者も大体4、50人おります。それで、私、個人的な感じになるのですけれども、これが上手くいっているのは、つまり、コーディネーターという方が3人いらっしゃいまして、何か頼むときはコーディネーターに連絡して、そのコーディネーターが実際問題、どういったお困りですかということ聞いて、大きなことといたしますか、先ほど、地面陥没とかそのような極端なことではなくて、少し人手がかかりそうだとか、専門の知識が必要だという感じになった場合はシルバー人材とか、それ以外の有料のところを推薦すると。それで、結局、ヘルプ南中野山で活動対象とする適当なものであると判断した場合に、それを協力隊員に割り当てるわけです。

それで、先ほど副委員長からありましたようにヘルプ南中野山も有料で、1時間500円ということ。つまり、時間的に1時間で終わる内容であるということ、車の送迎も1時間で終わるような場合ということになります。それで、先ほどちらっと言いましたように、専門的な知識、例えば、障子の張り替えとかふすまの交換とかそういうことはしない。剪定も少し専門的なのでしない。それから、草取りにしても、玄関から道路までの狭い範囲はするけれども、庭全体をやってくださいということは、原則的にはしません。いきさつ上といたしますか、どうしてもやってくださいと言われたときは数人で行くときもありますけれども、極力1時間で終わるように。夏などは1時間以上やっていると、協力隊のほうがまいってしまいますから、そういう感じの、ちょっとした困りごとというのはそういうことです。

変な言い方ですけども、私が最初に言いましたように、ヘルプ南中野山みたいな活動が、本来なくなって、隣近所、向こう三軒両隣と言いますけれども、それにプラスアルファの班の中で、それくらいだったらちょっと助けてあげられるなというようなことが根付いてくれば、自然にこういう組織などは必要なくなると。それが最終的な目標といいますか、目指す姿、スローガンみたいな感じですけども、そういうことになります。ですから、何ということではなくて、ちょっとしたというのはどういうことを言うのですかというのを聞かれましたけれども、それこそ中学生とか、あるいは60歳未満の人だったら何となくといいますか、どういうこともなくといいますか、苦労しない、さっとできそうなことでも、お年寄りにとっては非常に困っていることがあって、小さな電化製品を買ってダンボールが来たけれども、ダンボールも開けられないとか、設定のところ、例えば、トースターを買ったけれどもトースターを使う場所まで持って行けないとか、そういうことです。これはそういう事例があったかどうかは分かりませんが、例えば、ペットボトルが開けられないという場合もあるわけです。ここに出席されている方はみんな元気そうに見えますけれども、元気な方にとっては何ということもない動作とか操作とかそういうことに困っている人が現にいるわけで、そういう人を助けようというのがちょっとした困りごとということになります。これで説明になっているでしょうか。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございます。非常に皆様のご意見を聞かせていただきながら、私自身になるほどなど思いながら聞かせていただいていたいました。ちょっとした困りごとというけれども、皆さん、自分の中でイメージするものは違うと思うのです。最後におっしゃってくださったように、中学生や60歳未満とかだったら、多分、さっとできることだけれども、しかし、一人で暮らされている方々だったり、高齢だったり障がいがあったりだと、それがちょっと難しくて、そのことが生活上の、スムーズな生活ができなくなってしまっていたいなことが。

(渡辺(孝)委員)

困りごとということですよ。

(小池委員長)

本当にそうなのです。そのところを、本当にささえあいの仕組みの中でお互いに作り合っていく、そこを有料とか時間とかということによって制限をかけることによって、担う側もそこまで負荷を感じなくていいというような仕組みとされているところもあれば、先ほど大澤委員が言ってくくださったように、ちょっと行ってやっていますというところの中で補っているところと、多分、両方あって、それぞれのところが支えられているのかなと思いついて聞かせていただいていたいました。

地域の活動は生活に根ざしているところがあるので、ある意味、支援者が動き始めるときりがないところはやはりあるので、おっしゃってくださったように、どこかで何かで制限をかけないと、担う側もしんどくなってしまうよなというのはやはりあるかなと思いながら、聞かせていただいていたいました。有料がいいとか時間を区切るのがいいとかそういう話ではなくて、生活はどこまでやっても終わらないので、毎日必ず必要になってくる場所なので、そこはやはり大事なかなと思いながらも聞かせていただいていたいました。

あと、やはり、コーディネーターの方が入ってきちんと見極めておられるというのが大事ですね。

(渡辺(孝)委員)

その依頼について、本当にヘルプ南中野山の活動として適しているかどうかを確認して、それでもって別のところを紹介したりするということになります。

(小池委員長)

こちらではできませんではなくて、きちんと次につなげると。つなげ先もきちんと分かっておられるということですね。ありがとうございます。

ちょっと私のところからいろいろ皆さんにご意見をいただき増したけれども、ほかに、皆さんからここをちょっと聞きたいみたいなおところはございませんか。

(白井委員)

中野山コミ協です。

少し話が違いかもしれませんが、各地域で自治会がない世帯が中野山コミ協にはあるのですけれども、そういうところが各地区で自治会がない世帯にはどういう活動をされているのか、何もしていないとか、あと、東区役所で自治会がない世帯を把握しているかしていないか、その辺を少しお聞きしたいと思います。

(小池委員長)

皆さんそれぞれの区の中で、すでに自治会がないエリアがあるかどうかという話ですね。そこに対して、どこかで把握しているかどうか。

(白井委員)

あとは、活動の中でこういう茶の間がありますよということを紹介しているかしていないか。

(小池委員長)

皆様のところで、うちのこのエリアは自治会がないけれどもこのように紹介していますよとか、こういう情報発信をしていますよというのはありますか。

(白井委員)

自治会のない地帯はないのでしょうか、各地域。

(小池委員長)

今のところ、すぐ出てこない状況ですね。

(白井委員)

東区は把握しているのでしょうか。

(事務局)

健康福祉課の本間です。

町内会の担当課は地域課というところでございまして、そこだと町内会に属さない世帯とかアパートとかそういうものがあるということは把握しているとは思いますが、この場では分かりません。

(白井委員)

そういうところには、地域福祉活動計画は届かないわけですか。それは関係ないですか。

(小池委員長)

多分、それとは違うかなと思います。一応、全部公になっているものなので、関心のある方はどこにおられても見られると思いますし、区からとか社協もこういうものを行っていますという情報発信はされていると思うので、それは多分、自治会に所属している、していないは関係ないかなと思います。ありがとうございます。やはり、自治会に所属されていないところが増えてきているというのも、今、いろいろなところでも取り上げられているかなと思いますし、少しその辺りも、今後の地域福祉ということを考えていくときに少し知っておくといいのかなと思いながら聞かせていただきました。ありがとうございます。

(樋口委員)

民生委員の樋口と申します。

うちはコミ協との役員会が1か月に1回でしょうか、けっこう頻繁にやっていて、自治会が多いものですから、ブロック長が出ているのです。今回、今年の11月で一斉改選になりました、なかなか後釜が決まらないという、どこの町内もそうなのですけれども、民児協もそうなのではいけれども、悩みを持ってしまして、コミ協にも協力をお願いしますということで、毎回、役員会でお願いしているところです。やはり、ブロック長から下に伝わっているのかなという心配があるので、ぜひ、ここにも書いてありますけれども、民生委員と自治会全体との交流会を、ぜひ、持ちたいなという気持ちでお話を聞いていました。ありがとうございます。

それと、少し話は違うのですが、今回の座談会、土曜、日曜と健康福祉課、それから社協の皆さん出ていただきまして、本当にお休みなのにご苦労さまでしたとお礼が言いたかったです。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございます。ぜひ、これを機会に、すでにある団体同士の交流の機会といいたし
ょうか、というのが重なっていくといいかなというように思います。先ほど、最初のごあいさ
つにもありましたけれども、いろいろな団体が立ち上がりすぎているという言い方は少しよく
ないかもしれませんけれども、立ち上がっていて、少し整理していかないとなのか、あるいは
いろいろな団体がそれぞれの役割を果たすのであれば、それは顔が見える関係性を作っていく
中で、本当にそれこそ層を重ねる、重層といっている、あのイメージが形になっていくような
ところを目指していくのか、これは少し私の中でも、さて、どうなっていくのだろうと思いな
がら聞いているところです。

今の社会の状況を見ると、多少、役割が重なっていたとしても層になっていて、それこそ洩
れる人がいないということのほうがもしかしたら今は必要とされているのかもしれないですけ
れども、そうすると、皆さん大変なのです。いろいろな団体に所属されている方々がお互いに
横のつながりというものをどんどんやると、当然、こういう顔を合わせる機会も増えていくこ
とになりますので、そこでのバランスがいいのかと思いつつ見ているところです。しかし、
やはり、お互いが分かっていると、いろいろなところで、先ほど、ちょっとした情報のやり取
りはとてもしやすくなりますよね。と思って聞かせていただいております。また、皆様への
感謝も、ありがとうございます。

それでは、青木委員からも一言ずつ、全体を聞いていただいてご発言いただけるとありがた
いのですけれども、いかがでしょうか。

(青木委員)

ありがとうございます。自分自身が生活している自治会、町内というところに、私も正直、
あまり出ていく機会がなくて、外でばかり動いているというような状況です。なかなか、うち
の自治会は空き家がとてもたくさんになりまして、それで、ごみ当番とか下水掃除とか、そう
いうところがなかなか人手が足りなくなってきました。また、いらっしゃっても、もうそうい
う作業には身体的に無理ですという方もたくさん出ていらして、だんだんそういう、現実的に
フォローする、ヘルプをされる方々が減ってきているのが現状です。

そして、また、長期間空き家になっていると、本当に、前が庭という家が多い地域なのです
けれども、本当にじゅんさい池の近く、例えば、皆さんもしかしたら理解していただいている
かもしれませんが、よくたぬきが走ります。それから、ハクビシンが走っています。というよ
うな自然動物が餌を求めてくる、そして、空き家に住み着く。それで、空き家になっている植
木のみかんも取りに来るとか、なかなかそういう空き家対策というのもうちの地域にはけっ
こ問題になっております。

一人でいらっしゃる方々も生活での不自由、それから、だれもいない家での環境の悪化みた

いなものが、なかなかそこは地域でどうかするということが、いろいろな案が出て、うちの自治会で有料で庭を管理するかというお話も出たことは出たのですが、大半が、自分のところで精一杯という声でそれも実現できなくて、今でも皆様の各地域のお話を伺って、まだまだうちの自治会はやれることがあるなど、今日は非常にいい勉強をさせていただきました。私ももう少し自治会に出て行かなければ、何か問題があると集まってくださいと声をかけていたくので、そういうところは行かせていただくのですが、日常的に、地域の皆さんと、やはり、情報交換する場に出ているということは大事なことだなということを今日は感じさせていただきました。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。空き家問題、切実ですね。今、新潟市も力を入れて取り組んでおられるところだと思いますけれども、皆様のそれぞれの地域でも、多分、生じているのではないかと思います。ありがとうございます。

では、桑野委員、お願いできますか。

(桑野委員)

今回で3回目なのですが、本当に活動が一番していない自分だと思うのですが、回を追うごとに、地域の活動はとても苦労されて、若い人から年寄りまで網羅されてやっていただけているのだなということを、とても感じさせてもらいました。私は老人クラブだけなのでそこしか頭がなかったのですが、今日はいろいろお話を聞いて、では、老人クラブの役割って何だろうというように思い至りました。

それで、日本は世界一の長寿国でありながら健康寿命が低いと、10年の開きがあるということなわけです。また、地域で一人暮らしのお年寄りが孤独死されたり、大変な状況になっているということも事実だと思うのです。そういうことを考えると、その健康寿命を限りなく平均寿命に結びつけていく活動が老人クラブかなというように、私は今日、考えるに至りました。ですので、いわゆる最後の最後まで元気に地域で安心して暮らしていくために、同じ環境のものが励まし合いながら、栄養の問題、フレイルの問題、さまざま老人になってくると生きていくこと1日1日が闘いですので、知恵をお互いに出しながら、地域になるべくご迷惑をかけないで最後まで元気に励まし合いながら行くというのが老人クラブの役割かなと思いました。

それで、私はほとんど老人クラブの中で何も、ほかの地域のことはかかわっていないのですが、どのようなお年寄りが町内に一人暮らしでいらっしゃるのか、そういうことがあまり、情報交換が私自身、スムーズに行っていないかなと思いますので、大いにいろいろなところをお互いに、先ほど小池委員長もおっしゃいましたが、一番いい、合理的に効率のいい支援の仕方をお互いに考えていく、いろいろな立場から考えていくことも大事なかなと思

います。微力ですが、老人クラブの中で精一杯頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(小池委員長)

ありがとうございます。

では、貝沼さん、お願ひいたします。

(貝沼社会福祉士)

地域包括支援センター木戸・大形の貝沼と申します。もともとの委員の遠山委員と同じく、地域包括支援センターの中では、地域のネットワークづくりだったり、介護予防のほうに力を入れている業務を担当しております。

それで、皆さんからの報告をお聞かせいただきまして、それぞれの活動に対して頭が下がる思いです。私たちは、高齢者の方から相談をいろいろいただいている状況になるのですけれども、それぞれの地域によってあるもの、ないものがやはり、出てくるところなのです。先ほどから話があるとおり、課題が同じでも優先順位が異なるということで、それぞれ取り組まれている内容が異なってくるところかと思ひます。

本当に地域にある、私たち、資源という言い方をしてしまひて、そこにあるものが本当にあるかないかということが私たちにとっては非常に大きいのですという話がありました。ごみ捨て支援をしている自治会に住んでいらっしゃる方であれば、私たちも気兼ねなく、その自治会であればこういう支援がありますよというようにご紹介できるのですが、ない地域だと、私たちも本当に苦労してしまうということが多々あります。なので、それぞれの地域でやっている活動に対しては本当にありがたく思ひしております。ぜひ、今後とも、すみません、少し話がまとまらない中で、包括の役割として、なかなか私もどのようにかかわっていったらいいのだろうということは、この数年、ずっと考えながら、今の仕事に携わっているところなのですけれども、やはり、相談を受ける立場として、高齢者のニーズが何なのかということをもう少し発信できていけるといいのだろうなということは感じているところです。なので、そういうニーズを、ぜひ、皆様と共有させていただきながら、よりよい地域づくりをやっていきたいなと思ひしております。本日は、ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、大澤委員、お願ひします。

(大澤委員)

先ほども言ったことがすべてなのですけれども、各地域で皆様方の素晴らしいプランが地域の人たちに浸透するように努めていきたいと思ひしております。

(小池委員長)

ありがとうございました。皆様の評価をもとに、少し意見交換をさせていただきました。また、青木委員、樋口委員、桑野委員、貝沼さん、そして大澤委員から、全体を通してという形で、感想というか意見をいただくことができました。本当にこの1年間の皆様の活動をこうやって共有する機会を持てたことが大きかなと思っております。

皆様から何か追加でご発言等はありませんか。

よろしいでしょうか。丁寧な評価、そしてご発表、本当にありがとうございました。皆さんそれぞれのところでお気づきの点があったのではないかと思います。また引き続き、地域の活動がどんどん進展していきますように応援しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で議事はすべて終了いたしました。事務局に進行をお返ししたいと思います。皆様、ご協力ありがとうございました。

(司 会)

小池委員長、スムーズな進行、誠にありがとうございました。

続きまして、次第3、事務連絡です。

(事務局)

東区健康福祉課の鎌田と申します。私から事務連絡をさせていただきます。

本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。まず、本日の謝礼につきましてですが、4月中にご指定の口座に振り込みを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

また、来年度、令和7年度の推進委員会につきましては、また時期が来ましたら皆様にご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

また、現在委員をお務めいただいている皆様につきましては、任期が丸2年間ということで、今月末で満了となります。2年間、計画の推進にさまざまなご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。次期委員につきましては、各コミュニティ協議会でしたり各団体より推薦をいただいている最中でございます。来年度以降も委員を続けていただける方もいらっしゃいますが、今後もさまざまな立場で東区の地域福祉の向上にご協力いただき、ご意見を賜りたいと思いますので、今後とも、よろしく願いいたします。事務連絡は以上になります。

(司 会)

以上をもちまして、令和6年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を閉会といたします。

本日は、参加の皆様からさまざまなご意見や取組みをお話しいただきまして、誠にありがとうございました。それでは、お忘れ物がないようにお帰りいただければと思います。ありがとうございました。